令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 05-009
 担当 石川
 内線等 246

PDCA	事務事業名	平和運動推進事業	部課等名	総務部 総務課 総務担当				
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち						
		節： 第1節 学校教育の充実						
		基本施策： 1. 義務教育						
		単位施策： (4) 地域との連携協力						
根拠法令等	個別施策： ①ふるさと半田を大切にする教育の推進							
対象・目的	恒久平和に寄与するため、次世代を担う小中学生を中心に各種事業への参加を呼びかけ、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えていく。							
目的を達成するための手段・活動内容	半田の戦争遺跡見学会、平和懇談会（学校出前編）、非核・平和パネル展、平和を祈念する折り鶴の作成、平和に関するポスターコンクール、ミニミニ原爆展等、多くの市民が参加できるような各種平和事業を開催する。							
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	元年度	単位	
		①各種平和推進事業の実施件数		9.0	7.0	8.0	件	
		事業費		1,366.0	684.0	1,024.0	千円	
		人件費		1,269.0	1,249.0	1,242.0	千円	
		総事業費		2,635.0	1,933.0	2,266.0	千円	
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	元年度	単位	
	成果	①平和推進事業1件あたりのコスト		293	276.0	283.0	千円	
		②平和推進事業に係る参加者1人あたりのコスト		454	343.0	393.0	円	
		成果指標		29年度	30年度	元年度	単位	
		①各種平和推進事業への市民参加割合		実績値	4.9	4.7	4.7	%
				目標値	4.2	4.2	4.2	
				実績値				
		目標値						
		実績値						
		目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ある	
		②市民ニーズ	低い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない		
事業の評価・課題	B 「半田空襲と戦争を記録する会」の会員である戦争体験者と連携し、学校に出向いて行う平和懇談会は、年間5校（昨年比1校増）で開催することができ、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代を担う小学生に伝えることができた。また、平和祈念の折鶴作成や小中学生による平和に関するポスターコンクール応募数は、前年と比較して約50件の増加となり、目標値を達成することができた。							
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 戦争を知らない世代が増えている中、戦争体験者から直に話を伺うことができる平和懇談会の開催は、大変貴重な機会であるが、一方で、平和懇談会に参加できる戦争体験者は、年々高齢化している。講師を担っている「半田空襲と戦争を記録する会」も後継者育成のために、令和元年度からは各小学校に出向く出前講座にも後継者の方に参加していただくなど、事業を継続できるよう協力をいただくことができている。今後も他自治体等の事業も参考にしながら、平和事業の内容等を充実させていく。						
	令和2年度の目標	成果指標				目標値	単位	
		①各種平和推進事業への市民参加割合				4.7	%	